

11月4日(祝)レイバーフェスタ2002開催!

あなたにパンとバラを「労働」を観よう・聴こう・話そう

●日本初の労働者文化祭

映画や音楽などを通じて、身近な「労働」「生活」を見つめなおす、日本初の労働者文化祭=レイバーフェスタ2002がいよいよ11月4日(月・振替休日)に開催されます。アメリカ・韓国で開催されている「レイバーフェスタ」に参加したレイ

バーネット日本のメンバーが申請を受け、レイバーネット日本が呼びかけて実行委員会がつけられて準備されています。

さまざまな職場の現実や、そこで働く人々の気持ち、職場で起こった問題をどう解決し、どう生

きていくのか、真実を自分の目で観、耳で聴き、そして同じように働く人々と語り合うことにより「労働運動」の意義や魅力を考える集まりにしていきたいと考えています。

●巨匠監督ケン・ローチ『ブレッド&ローズ』(2000年)上映とアメリカからのゲストを交えての討論

●特別ゲスト:ピクター・ラメレスさん(全米サービス従業員組合SEIUローカル 1877)

『ケス』、『リフ・ラフ』、『レイニング・ストーンズ』、『ピケをこえなかった男たち』などイギリスの労働者階級の生活を深い共感をもって撮り続けている巨匠監督ケン・ローチが初めてアメリカ

を舞台に撮った『ブレッド&ローズ』を上映します。映画のモデルとなったSEIU全米サービス従業員組合のピクター・ラメレスさんをロサンゼルスからお招きして、映画のエピソードやその後

の運動について語っていただきます。日本の労働者を交えての労働運動の魅力についてのディスカッションもご期待ください。

●3分ビデオにアメリカ・韓国からの参加も決定!

参加者が単に聴衆・観客になるのではなく主体的に参加することをめざすフェスタのもう一つの目玉企画「アナタの仕事・ワタシの権利」3分ビデオに、韓国・アメリカからの参加が決まりました。

た。日本全国からよせられた3分ビデオと海外からの参加ビデオをつなげて一つの作品として上映します。たくさんの映像はどのようなキルトになるでしょうか。ご期待ください。ビデオ出品はま

だぎりぎり間に合います!事務局までお問い合わせください。

●世界の労働歌を歌おう!

労働運動の中で歌われる歌はたくさんあります。世界各地の歌を紹介するとともに、参加者自身がステージに上がるのも大歓迎です。この秋にソウ

ルに行く予定の日韓非正規労働者フォーラム実行委員会のメンバー(女性ユニオン東京や青年ユニオンのメンバーが中心)は、事前にカラオケで韓

国の労働歌を練習してフェスタ当日に備えています。知っている歌が流れたら、あなたも恥ずかしくならずステージへどうぞ。

●ホームページを見て参加した学生も!活気に満ちたフェスタ実行委員会

レイバーフェスタ実行委員会には、これまでレイバーネット日本の会員ではなかった方が何人も参加されています。新しい層・世代と結びつきながらレイバーフェスタ2002は準備されています。3人の方に「レイバーフェスタに期待すること」を書いていただきました。

まずは、ビデオ活動家の小林アツシさん。

■小林アツシ(ビデオアクト)

日本ではじめての「レイバーフェスタ」が11月4日に行われる。このイベントの目的は大きくいって4つだと思う。

ひとつは、労働運動に関心が薄い人たちに目を向けてもらう事。フリーターなどの増加により組合に入らない人が増えている現在、労働運動の魅力を伝えることが必要とされる。

二つ目は、所属している党派がどこだろうとそれに縛られずにさまざまな労働組合をこうしたイベントによりつなげる事。

そして三つ目は、労働者が自前の文化を創り出す土壌を作る事。規制の映画や音楽だけではなく

実際の労働者による音楽や3分ビデオの募集をしているのもそのためだ。

そして最後に、こうしたイベントを通じて労働組合じたいが新しく変わっていく事。僕自身はどちらかという労働運動は門外漢だ。だからこそチラシの文面などに対して「こういう表現だと労働運動に無関心な人には伝わらない」という指摘をするのが役割なのだろう。「カタイ、コワイ、クライ、ダサイ」と言われがちな(失礼!)労働運動のイメージを変えていく事が運動に関わる人を増やしていくためには不可欠だと思っている。

次に、大学生の日高啓華さん。レイバーフェスタのホームページを見て実行委員会に参加された方です。

■日高啓華(東京女子大学学生)

労働について何も知らなかった私が、レイバーフェスタ実行委員会に参加して1ヶ月あまり。まだまだ知らないことだらけで、皆さんの気遣いに圧倒されながら参加している。

労働について考えたことがなく、権利なんて知る由もなかった私だが、ひとつ変わったことがある。それは、労働に対する意識を持つようになったということだ。普段友人と話していると、私を含め若者の働くことに対する意識の低さを実感する。みんなが関わる「働く」という問題だからこそきちんと向き合って考えなければならぬはずなのに、みな消極的で受身なのだ。

レイバーフェスタ実行委員の方々は、活発で面白い方ばかりだ。前向きに生きているという感じがして、最年少の私が一番元気をもらっている気がする。

レイバーフェスタを通して、ひとりでも多くの人に「働く」ということを考えてもらいたいと思う。そして、私もわずかながらそのお手伝いができたらと考えている。

3人目は、ED労組の広浜綾子さん。イラスト入りです。→ ううへ

●レイバーネットアメリカ代表のステーブ・ゼルツアーさんが参加

レイバーネットアメリカのステーブ・ゼルツアーさんもサンフランシスコから参加します。毎年、サンフランシスコで開かれているレイバーフェスタの楽しさに刺激を受けて

始めた日本のフェスタだけに、ゼルツアーさんにも大いに一緒に楽しんでもらいたいと思います。先日、レイバーネット日本にアメリカ西海岸の港湾ロックアウトについて情報を

送ってくださった、ゼルツアーさんのお連れあいの鳥居和美さんも一緒に参加されます。アメリカのフェスタについてのお話もうかがえると思います。

私たちがED労組は、2年前に
争議を勝利解決させること
ができました。原職復帰は手に
することはできませんでしたが、
解決金を元に、労働者協働組合
を立ち上げ、仕事をしています。
労働運動の大切さが一般には
理解されにくいという壁にあたり、
いる時にフェスタの企画を知りま
した。
誰もが参加でき、誰もが理解でき
るような労働運動を期待しま
すし、いっしょにフックをいきたいと
思います。



ED労組・ワーカーズコープアス
ラン・出版ネットの広域です。
レイバーフェスタの実行委員
会に参加するようになり、
レイバーネットの会員になりました。

●次々と賛同団体・賛同人が集まっています！

『週刊金曜日』の協賛も決定！

これまでレイバーネット日本とつながりのなかった労組・団体・個人の方からも次々と賛同が集まっています。以下に、10月15

日現在の賛同団体・賛同個人の方を紹介いたします。賛同団体・賛同人は開催日まで随時募集しています。賛同していただける団体・

個人の方はフェスタ実行委員会までご連絡ください。

<賛同団体>

小川町シネクラブ・郵政4.28 ネット・ED労働組合・全国一般全国協議会・自主生産ネットワーク・オルタフォーラムQ・ビデオプレス・ひょうたん島研究会・ユニオン出版ネットワーク・闘う闘争団に連帯する首都圏の会・JCA-NET・ゼネラルユニオン・たたかう国労

闘争団・東水労西部地域協議会・平凡出版労組・協同センター労働情報・郵政労働者ユニオン・日韓非正規雇用フォーラム(CWF)・自治労公共サービス清掃労組・オリジン電気労組・ジャパンユニオン・ふれあい江東ユニオン・東京東部労組・山谷労働者福祉会館活

動委員会・女性ユニオン東京・神奈川シティユニオン・全日本建設運輸連帯労組・週刊金曜日・全国福祉保育労働組合東京地方本部・浴風会労組・首都圏青年ユニオン

<賛同個人>

伊藤彰信(全港湾)・安田幸弘(JCA-NET)・松原明(ビデオプレス)・河添誠・高幣真公(APWSL 日本委員会)・佐々木有美(ビデオプレス)・片柳悦正・神野圭介・広浜綾子(ED労組)・小林アツシ(VIDEO ACT!)・木下昌明(映画批評家)・土屋トカチ・伴幸生・西中誠一郎・日高啓華(学生)・八幡純一(国労組合員)・清水直子(ACT 編集部)・伊田広行(大

阪経済大学教員)・新田進(小川町シネクラブ)・渡辺弘・御園生光治(在韓軍人軍属裁判を支える会)・尾沢邦子・むとう有子(中野区議)・久保木匡介(青年ユニオン)・中野暢夫・名取学(青年ユニオン)・戸室健作・渡辺憲正(関東学院大学教組)・後藤道夫(都留文科大学)・田辺直正(青年ユニオン)・養輪明子(公共一般労組)・鈴木忠義・森田成也(公共一般

労組)・山崎精一(APWSL 日本委員会)・相川達也・大塚輝代・中山弘樹(自治労日野市職)・安齋徹雄(出版ネッツ)・なすび(山谷労働者福祉会館)・大屋定晴(ATTAC JAPAN)・民谷孝則(全国福祉保育労組)・澤根好郎(佼成学園教職員組合)・渡辺治(一橋大学)・宇田正子・木下武男(鹿児島国際大学)

<賛同人の方から寄せられたメッセージ>

■先日「ブレッド&ローズ」を観てきました。「労働組合」の原点を考えさせられ、また、その感動が僕の心に、あらたなたたかひへの闘志を燃え立たせつづけています。ひとりでも多くの人にこの映画をみてもらいたいし、

議論もしたい。そんな思いもあるし、すっかりブチ・ブル化してしまった「メーデー」にかわるものとして、「レイバーフェスタ」がひとつのオルタナティブとして重要な役割を演ずると信じ、この取り組みに賛同します。

(N) ■個人・会社・国境の枠をこえて「異なる世界」を作っていくムーブメントに魅力を感じる。レイバーフェスタのような斬新な挑戦が、若者の心をつかむ新しい労働運動をつくっていく上で必要だと思う。(JNK)